

オミクロン株に対する新型コロナワクチンの有効性（感染予防効果）

【研究内容】

新型コロナウイルス感染症の感染予防効果を分析した研究

対象： イスラエルの医療従事者：29,611人

2021年8月から9月の間に、3回目のファイザー社製ワクチン接種を行った者で、2022年1月2日時点で新型コロナウイルス感染症の既往がない者

手法：対象者のうち、2022年1月に4回目を接種し、接種後7日経過するまでに感染しなかった者（4回目接種群[1]5,331名）と、4回目未接種者（3回目接種群24,280名）の感染状況を比較

【研究結果】 4回目接種後約30日間（2022年1月～2月の間）

感染予防効果（3回目接種者と比較した4回目接種者の感染リスク）

- 粗リスク比 : 0.35 [95%CI : 0.32-0.39]
- マッチング解析リスク比[2] : 0.61 [95%CI : 0.54-0.71]
- 調整ハザード比[3] : 0.56 [95%CI : 0.50-0.63]

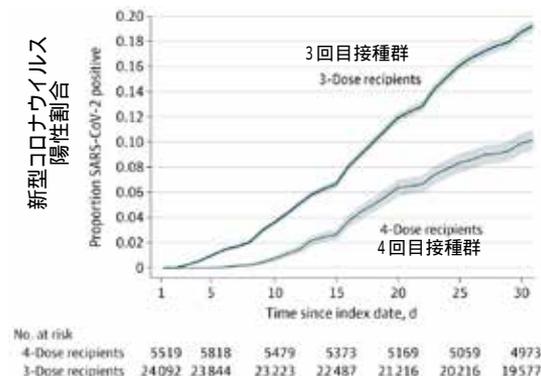
【研究報告】

ワクチン4回目接種は、ブレイクスルー感染の発症率を減少させた

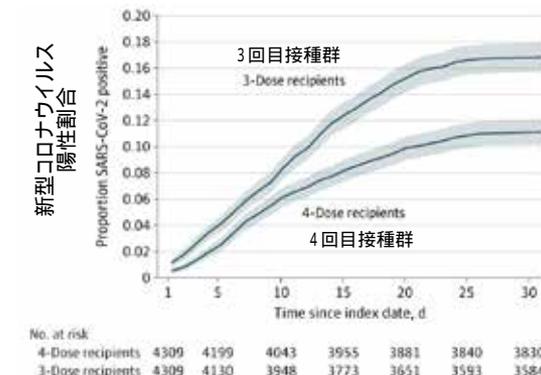
- 接種後7日以上が経過するまで新型コロナウイルス感染症の既往がなかった者が対象。7日経過していない者は、3回目接種群に組み入れ(188名)
- 性別、年齢階級、勤務先病院、職種、3回目接種を受けた日付により1:1でマッチング
- 性別、年齢階級、勤務先病院、職種、3回目接種を受けた歴月により調整

【参考】

ワクチン4回目接種群と3回目接種群の全コホートにおける感染率



ワクチン4回目接種群と3回目接種群のマッチングを実施した者における感染率



本資料は以下を基に作成

「Cohen MJ, Oster Y, Moses AE, Spitzer A, Benenson S; Israeli-Hospitals 4th Vaccine Working Group. Association of Receiving a Fourth Dose of the BNT162b Vaccine With SARSCoV-2 Infection Among Health Care Workers in Israel. JAMA Netw Open. 2022 Aug 1;5(8):e2224657. (査読前論文)」 「第34回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 資料」